



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLISHING FUND PROJECT

「十二五」國家重點出版規劃精品項目

包頭附近的農村事情「外四種」

內蒙古大學內蒙古近現代史研究所 內蒙古自治區圖書館學會 主編
內蒙古外文歷史文獻叢書「第二輯」 資源經濟係列「二」

滿鐵包頭公所 等

內蒙古大學出版社



責任編輯 張 昱 彩 娜
印章篆刻 王雲山
裝幀設計 張燕紅

ISBN 978-7-5665-0150-9



9 787566 501509 >

全冊定價：¥1580.00元



「十二五」國家重點出版規劃精品項目
內蒙古大學「蒙古與北方民族史文獻
檔案整理研究」創新團隊係列成果



資源
經濟

滿鐵包頭公所等

內蒙古大學出版社

包頭附近的農村事情〔外四種〕

圖書在版編目(CIP)數據

內蒙古外文歷史文獻叢書·資源經濟係列(一)·包頭附近の農村事情[外四種]/周太平,李曉秋,忒莫勒主編. —呼和浩特:內蒙古大學出版社,2012.5

ISBN 978-7-5665-0150-9

I. ①包… II. ①周…②李…③忒… III. ①農村調查-包頭市-民國-日文 IV. ①D693.79

中國版本圖書館 CIP 數據核字(2012)第 090212 號

內蒙古外文歷史文獻叢書 (第二輯)

資源經濟係列 (一) 10

書 名	包頭附近の農村事情[外四種]
叢書編者	內蒙古大學內蒙古近現代史研究所 內蒙古自治區圖書館學會
原書作者	滿鐵包頭公所等
責任編輯	張 昱 彩 娜
印章篆刻	王雲山
裝幀設計	張燕紅
出 版	內蒙古大學出版社 呼和浩特市大學西路 235 號(010021)
發 行	內蒙古新華書店
印 刷	內蒙古地礦印刷廠
開 本	889×1194/16
印 張	35.375
插 頁	2
字 數	460 千
版 期	2012 年 5 月第 1 版 2012 年 5 月第 1 次印刷
標準書號	ISBN 978-7-5665-0150-9
全輯定價	1580.00 元

本書如有印裝質量問題,請直接與出版社聯繫

內蒙古外文歷史文獻叢書編委會

編委：周清澍 王志誠 馬永真

齊木德道爾吉 喬玉光 朝克

李曉秋 周太平 忒莫勒

寶音德力根 娜仁格日勒

蘇德畢力格 張志忠 朱瑞英

王凱 趙英 張昱 彩娜

執行主編：周太平 李曉秋 忒莫勒

前言

人類的歷史和文化，除了民間存留的一些傳統觀念和風習外，主要靠在歷史滄桑中存留下來的各種文獻（記錄有知識的一切載體，包括紙本、音像、口碑等）和遺迹遺物（遺址和各種實物等）保存并傳承。如果沒有這些文獻和遺迹遺物，我們就喪失了記憶，就沒有歷史，就沒有文化，就無法積累知識，更無法把握現在和面對未來。因此，重視并妥善保存文獻和遺迹遺物，在任何地方都應是政府和整個社會關注并支持的重要社會事業，其意義之深遠，無論怎樣評價都不過分。

內蒙古地處邊陲，歷史上多牧野長歌，少詩書弦誦，自身的文獻保存相對較少，再加上近代戰亂頻仍，文獻損失和流散嚴重。這種情況，更凸顯出外國人相關記述及研究成果的獨到價值和作用。

從十三世紀意大利傳教士普蘭·迦爾賓、法國傳教士威廉·魯不魯克出使蒙古後撰寫的游記及以後的《馬可波羅游記》起，西方對蒙古地區的記載逐漸增多，較著名的有：十八世紀法國傳教士張誠的日記和回憶錄、俄國使者N·俾丘林的《文件資料》（1828年）、古伯察的《韃靼西藏旅行記》（1851年）、英國傳教士詹姆士·吉爾摩的《在蒙古人中》（1883年）和《蒙古探險記》（1886年）、約翰·赫德裏的《黑暗蒙古游記》（1910年）、俄國探險家M·普爾熱瓦爾斯基的《蒙古和唐古特人地區》、俄國學者格·波塔寧的《中國的唐古特、西藏邊區與中央蒙古》、A·M·波茲德涅耶夫的《蒙古及蒙古人》（1898年）、B·K·科茲洛夫的《蒙古與喀木》（1905~1906年）和《蒙古、安多和死城哈拉浩特》（1923年）、英國D·萊斯頓伯爵的《從北京到錫金——穿越鄂爾多斯、戈壁灘和西藏之旅》（1908

年)、丹麥探險家亨寧·哈士綸的《蒙古的人和神》(1935年)等;也涌現出不少舉世聞名的專家學者,如瑞典的A. C. 多桑,法國的R. 格魯賽、P. 伯希和L. 韓百詩,俄蘇的I. 施密特、O. 科瓦列夫斯基、K. 戈拉通斯基、W. 巴托爾德、B. 符拉吉米爾佐夫、N. 鮑培,德國的E. 海涅什、W. 海西希、H. 福蘭克,美國的O. 拉鐵摩爾、W. 柯立甫、H. 賽瑞斯,匈牙利的L. 李蓋提,波蘭的W. L. 科特維奇,芬蘭的G. J. 蘭司鐵,比利時的田清波,瑞典的斯文·赫定,等等。其中,俄國人表現得尤為突出。從十九世紀中葉以來,隨着沙俄勢力的南下擴張,伴生出文化上的『東方學』(包括蒙古學)研究,先後有大批旅行家、考察隊、軍官、情報人員等深入蒙古腹地進行調查,其中表現最為搶眼的是沙皇政府支持下的皇家地理學會。據不完全统计,在僅僅四十年的時間裏,竟先後有五十多支俄國考察隊來到蒙古地區、西北地區及青藏高原地區進行實地調查研究,撰寫出各種著作、專論、考察報告、旅行記等,篇幅厚重者竟多達數千頁。

十九世紀末日本崛起,甲午戰後占領朝鮮,日俄戰後又奪得旅大,通過南滿鐵路滲入滿蒙。出于不斷擴張的需要,日方先後派出大量人員赴滿蒙地區進行調查,編纂並出版了數量眾多的調查報告、行記、踏查記錄和研究專著,還創辦有相關刊物;侵占中國東北和內蒙古大部後,更在『滿洲國』和『蒙疆政府』的名義下進行了大量調查研究,官私著述眾多,成為海外對蒙古地區記載最為豐富的國家。在這方面,除個人行為外,表現突出的有南滿洲鐵道株式會社調查部、善鄰協會、東亞同文書院和偽滿、蒙疆轄下的各有關機構。

日本方面的調查既有對某一地方的綜合記述,也有關於資源、物產、氣候、生態、商業、土地、交通、衛生、民俗、宗教、教育等各方面的專項記載,其覆蓋面之廣,觀察之細密,數量之巨大,令人驚嘆。以此為基礎,其相關的研究著述,也是成果豐碩。諸如參謀本部的《鄰邦兵備略》、鬆本隼的《東蒙古真相》、關東都督府陸軍部的《東部蒙古志草稿》、柏原孝久和浜田純一的《蒙古地志》、善鄰協會的《蒙古大觀》、河原操子的《蒙古土產》、鳥居龍藏的《東部蒙古的原始居民》、鳥居夫人的《從土俗學考察蒙古》、後藤富男的《蒙古游牧社會》、藤岡啓的《滿蒙經濟大

觀》，以及滿鐵調查課的《滿洲舊慣調查報告書》（蒙地卷）、偽滿土地局的《關於舊蒙地》、偽滿產業部的科爾沁各旗區調查報告書和興安局所屬各省旗實態調查報告書等衆多日文資料，頗爲可觀。

據目前掌握，有關內蒙古的原版外文文獻約有數千種，其中大部分是圖書，還有期刊及其他類型的文獻，有些還標明屬於機密。

這些外文著述的撰著動機目的各異，有的是獵奇，有的出于研究愛好，有的就是爲其擴張服務，其調查和研究也難免有不同的立場和局限。但不能否認，由于撰著者具有與國人不同的文化知識背景和觀察視角，以及對異國風土人情的強烈好奇心，并且大多掌握有測量、照相等技術手段和科學的田野調查方法，有些人就是某些領域的專家，故往往記載準確細密，保存了大量國人司空見慣、熟視無睹、不屑記載的情景，其學術研究亦往往有真知灼見，客觀上爲蒙古地方保存了大量豐富的第一手資料和衆多線索，成爲日後歷史學、民族學、社會學、經濟學乃至相關自然科學研究不可或缺或寶貴的寶貴財富。國內外學術界，尤其是國際蒙古學界，公認這些歷史文獻具有獨到的價值和其他資料無可比擬的突出優點，其中許多資料本身就是當時相關專業人員『學術性努力』的重要成果。人們迫切期待出版利用這批珍貴的資料。

與國內發達地方相比，內蒙古在搜集、整理和出版民族文獻與地方文獻方面始終處于落後地位，不僅已有的文獻收藏頗爲薄弱，更有大量缺藏文獻分散于國內各地甚至國外。我們理應去追尋、復制這些文獻，並加以系統的整理、研究、翻譯和出版，爲社會各界和廣大讀者提供資料和參考。爲此，內蒙古大學內蒙古近現代史研究所、內蒙古自治區圖書館學會和內蒙古大學出版社攜手合作，着手編輯并出版本套《內蒙古外文歷史文獻叢書》。所謂『歷史文獻』，并非專門記述歷史的文獻，而是指歷史上形成的各類文獻（不論其內容屬於何種學科），其時間下限在1949年以前。叢書以日文文獻爲主，其他外文文獻爲輔；爲保存文獻的基本面貌，以影印方式出版，如有因條件限制而變更開本或其他情形者，則另作編輯說明；叢書編排將按內容區分系列，並適當考慮地

域及時間因素。

本套叢書編輯出版之難點，首先在文獻的搜集，其次是篩選、分類和編排。必須說明的是，有些外文文獻原書已漫漶不清，或筆畫中空，或筆畫殘缺，甚至有的已模糊到難以辨認，但考慮到這批外文文獻的珍稀性，也考慮到文獻收集的完整性，我們仍予以收錄並出版。由于工作量大，時間倉促，且缺乏編印原版外文文獻的經驗，故工作中難免有不盡如人意之處，在此敬請廣大讀者諒解並指正。我們真誠地希望叢書能得到有識之士和社會的支持與幫助，共同開創內蒙古文獻積累、學術研究和文化發展的新局面。

內蒙古外文歷史文獻叢書編委會

二〇一一年十月

目録

■ 包頭に於ける皮毛店・皮莊	二
■ 包頭に於ける黒皮房	一五
■ 包頭に於ける絨毯業	一七
■ 包頭の蔬菜園藝農業に於ける灌漑	四〇七
■ 包頭附近の農村事情	五二一

五	四	三	二	
二	〇	一	一	
一	七	七	五	一



滿鐵調查研究資料第四十六編
北支經濟調查所編（北支調查資料第二十輯）

包頭に於ける皮毛店・皮莊

——內蒙古に於ける商業資本の特質に關する一研究

南滿洲鐵道株式會社

調查部

部

凡 例

一、本調査は、當分室が企圖する内蒙經濟社會の基礎的調査の一部として、曩に發表せられた手工業調査並に近く公表せられる農村社會調査(註一)の姉妹篇たるべき、商業調査の第一編をなすものであり、それは、現在問題とせられてゐる所謂西北貿易の基礎的研究の一環たると共に特に、この西北邊疆地方の經濟社會的諸關係に強固に内在してゐる支那固有の封建的な諸關係も、商業資本の機構・機能の具體的な分析を通じて、把握せむとするものである。

一、包頭に於ける皮毛店・皮莊を取上げたのは、包頭の商業機構の研究そのものにより、蒙疆に於ける商業並商業資本の特殊性を明らかにすることが出来、且つ包頭に於ける商業機構並に商業資本の機能は、皮毛店・皮莊を調査對象とすることによつて、その核心を把握し得ると云ふ大井分室主任の指示によるものである。

一、本稿は、昭和十五年四月より九月に互る戸別訪問調査に基くものにして、調査の遂行にあつては、大井主任及び安齋囑託の指示に従つたが、殊に調査の方法及び本稿の執筆については、安齋囑託の指導を仰いだ。茲に深く謝意を表する。

一、本稿執筆者は張家口經濟調査所包頭分室・小川久男。

註一 安齋康治氏「包頭に於ける絨毯業」(滿鐵調査月報)昭一四・五月號、同氏「包頭に於ける黒皮馬」(同上)昭一四・一一月號。

註二 包頭分室編「伊克昭盟達爾汗旗河套川地調査報告」(近刊)。

昭和十六年六月

滿鐵張家口經濟調査所長 川

井 正 久

目次

第一章 緒論	第三節 獸毛・獸皮類の出廻事情
第二章 皮毛店・皮莊の沿革	第八章 皮毛店に於ける取引事情
第三章 經營數と經營規模	第一節 皮毛店の意義と機能
第四章 資本の構成とその特質	第二節 獸毛・獸皮類の搬入より販賣迄の過程
第五章 商業資本の内部的規制	第三節 獸毛・獸皮類の販賣過程
—東夥守各規條竝に號規章程—	第四節 皮毛店に於ける決済
第六章 經營使用人の編成と雇傭關係(給與)	第九章 皮莊の意義とその取引事情
第七章 獸毛・獸皮類の種類竝に出廻事情	第十章 裁毛社と生皮社竝に皮毛業同業公會
第一節 當市に出廻る獸毛類の種類	第十一章 結論
第二節 當市に出廻る獸皮の種類	附錄(參考資料)

第一章 緒論

蒙疆は、爾來游牧に基礎を置く游牧民によつて占據せられてゐた。明代以來、特に清末を轉期とする支那移民の北進、農業生産の發展と共に、游牧に基礎を置く蒙疆の經濟的社會的構造は、漸次に變質して來て今日に至つたが、牧畜の持つ意義は依然として極めて大きい。由來この地方に於ける商業資本の活動は、游牧に基礎を置く牧畜社會との交易に現れ、社會的生産に於ても、民族的構成に於ても、全く異質的な關係を内包する二つの社會を結ぶベルトの役割を果たして來たが、今日に於てもこの質的特質は依然として殘されてゐる。端初的な商業資本の活動が、如何にこの地方に於て展開されたかは明らかでない。また、我々は、こゝでこの問題を究明しようとは考へない。併し、商業資本の發展が、軍事的都市として發展した綏遠城を除外すれば、張家口は京津と外蒙竝に察哈爾・錫林郭勒を結ぶ交易を中心として發展し、歸化城は山西と烏蘭察布竝に外蒙との交易によつて育成され、包頭もまた西北竝に伊克昭・烏蘭

察布との交易によつて發展して來た。かくして、牧畜社會との交易を槓桿として、この蒙疆地方に於て、いくつかの商業都市が形成されたことだけは指摘することが出来る。併し、蒙疆に於けるいくつかの都市は、一言で要約すれば、生産を異にする二つの社會を結ぶ交易の恒常化とその發展と共に形成されて來た。だが、この地方の都市の總てが商業都市として發展して來たことには變りないが、その一つ一つについて見れば、これらの都市が各々特異な性格を持つてゐることが看取される。然らば、當包頭は、如何なる性格を持つた都市であらうか。

京包鐵道の最終點に位する當市は、從來より游牧的牧畜經濟に置かれてゐる西北竝に伊克昭・烏蘭察布との交易により育成され、發展して今日至つたことは、曩に指摘した如くである。従つて、これらの諸地方との交易は、その諸地方の社會的條件によつて、當然牧畜に基礎を置く社會から生産され、商品に轉化する獸毛・獸皮類が最重要品であることから、これらの商品を度外視して考へることは出来ない。全く當市は、この獸毛・獸皮類の取引を中心として發展して來た商業都市であると規定することが出来る。然らば、その商業都市への發展は如何にしてなされたか。

當市が商業都市として胎成し、其の萌芽を示したのは、極めて古い。併し、世界經濟に繋がる近代商業都市に發展したのは、鐵道の開通後のことに屬する。包頭の都市としての萌芽は、既に前清雍正・乾隆の頃に始まる。この頃清朝は、支那統一を完成し、蒙古と支那本土は、一つの政治的權力によつて結合されたが、經濟的に商業資本の蒙地への侵出は、支那移民による開墾の進展によつて益々不可分に結合されて來た。農民の進出・商業資本の恒常的活動の強化と共に、包頭は益々都市としての性格を帯び始めて來たものである。當市に於ける商業が、既に古く雍正年間頃に起源を有することは、當市商會の名譽顧問なる劉澍氏^(七十)の言によつて或る程度窺ふことが出来る。

「當市に於て最も古い商家は、永合成(蒙古行)・如月號(貨店)・富盛公(當舖)であつて、前三者は雍正年間に、後者は乾隆年間にそれぞれ開業された」(劉澍氏談)

だが、當時に於ては、尙ほ商業ギルドの組織は見られなかつた、當市に於ける商業ギルドの組織は、漸く道光年間
に於て見られた如くである。劉澍氏は、更に次の如く語つてゐる。

「現在の商會は最初公行と呼ばれてゐたが、この公行は道光十八年頃成立し、同治年間に大行と改められたと聞いてゐる。其の後光緒三
十年に公社と改められ、更に、民國三年に至り商會と改められた。公行の成立以前に於ては國行なる存在があり、乾隆年間に成立したもの
であると謂はれてゐるが、この國行には、農業者・商工業者が組織されてゐた」(劉澍氏談)

商業ギルドたる公行の道光年間に於ける創設を以て、當市の商業が或る程度の發展を示し、從來商工業者の組織體
であつた國行から分離を必要とするに至つたものであると推定出來得ると思ふのである。この頃、當市を基點として
陰山々脈北部・鄂爾多斯は勿論のこと、黄河の水運或は陸路によつて、遠く寧夏・甘肅の地域との交易が行はれてゐ
た。當市關帝廟に存在する碑文には、次の如くに書かれてゐる。

「查包頭鎮、濱臨黄河、甘肅・寧夏襟貨、順流而下、較陸路行走計近數倍、未便因殺虎關之稅、勒令該商等迂道由內地出關、致商旅之跋
涉、而殺虎關以邊爲界、西包頭遠在口外、距關尚有五百餘里之遙、又未便仍聽該關書巡越收、包頭鎮地方、既屬歸綏道所轄、可否改歸歸
化關、就近徵收、凡黄河運到各貨、一入該鎮、均責成歸化關照例徵收……本道現定於本年七月初一日、接辦西包頭鎮稅務、凡由寧夏・甘肅
販至一切襟貨、應在西包頭鎮稅廳、應按例納稅……」(關帝廟碑文)

右の引證の如く、黄河の水運による寧夏・甘肅との交易の増加は、これ等交易商品に對する課稅が問題とされ、遂
に道光二十八年七月當包頭鎮に歸化關に屬した稅廳が設置せらるゝに至つたことは、當市商業の發展を物語るものと
して注目せらるべきであらう。

以上により、當市は道光年間頃漸く商業都市としての性格を帯び始めたと見ることが出来るが、更に「同治十一・
二年に互る現在の城壁構築」(劉澍氏談)は、商工業の一段の發展を想像することが出来る。併し、當市の沿革について見
るに、最も重視せねばならぬことは、外國資本主義の諸影響である。勿論、外國資本主義の進入から比較的に防護さ

れてゐたこの地域は、游牧的牧畜經濟に置かれてゐる諸地方との交易により發展を示したであらうが、その主要交易品たる獸毛・獸皮類は僅かに國內商品として、恐らく狹隘な販路しか見出し得なかつたであらう。然るに、光緒初期よりの外國資本主義の直接的進入は^(註)これ等獸毛、獸皮類をしてそれら諸外國の工業原料品として一躍國際商品に登場せしめ、急激にその商品價值を高め、需要もまた増加して來た。全くこの獸毛・獸皮類の國際商品化こそ、當市をして今日の近代的商業都市たらしめた最大の原因であると見ることが出来る。併し、當市をして近代的商業都市に發展せしめた直接的な要因は、民國十二年の鐵道開通であると謂へる。當市にとつて、この鐵道の開通こそは、極めて重要視さるべきである。この鐵道の開通によつて、西北との交易に於ける最重要性を持つ黃河の水運と鐵道とを當市に於て結びつけを完全にし、更に當市と京津とを直接に結びつけたことは、ヨリ強く世界經濟に繋がれることとなり、當市は獸毛・獸皮類の取引を中心として、一躍近代的商業都市へと發展した。かゝるが故に、西北竝に伊克昭・烏蘭察布との交易の基點たる當包頭市の特質を明らかにし、また現在問題とされてゐる所謂西北貿易を研究するためには、先づ當市の獸毛・獸皮類の取引機構から調査されねばならない。

註 光緒初よりの外國資本の直接的進入とは、外國資本たる天聚德・新泰興・天聚仁・新泰合・仁記・瑞記等々の洋行が光緒八・九年頃羊毛買付けのため來包したことを意味する。(第二章參照)。

曩に、公行の創設から現在の商會に至る概略に就て、商會名譽顧問・劉澍氏の言を引用したのであるが、この組織體は商工業の發展につれ、各業者が自然的に相互の利益と、ヨリ以上の發展の爲めに必要とされて、生れて來た機關即ち商工業者の集成ギルドである。この集成ギルドは、各同業者が相互の緊密なる結びつきを必要とし、或は共同利益擁護のため形成された「社」なる名稱の組織體即ち商工業ギルドの統一機關である。この社なるギルドは現在もなほ手工業に於ては存在してゐるが、資本主義的諸關係の影響を受けて、商業ギルドは既に完全に解體してしまつたこと